

Welcome home.

ひずるしい邑の こんな暮らしが あったんだ



SHIZUTAMA



You will probably think that it's like a scene from
a movie but actually it's nothing special.
This is a countryside story in Japan.





P4-15

鎮玉の人々

- ①まちと違う車時間 お父さんは鬼と舞う P4
- ②自然からアイデアを 子育てする絵描きさん P5
- ③決め手は地域の学校 多拠点ワーカー P6
- ④「ヒト」に向き合う移住コーディネーター P7
- ★学校特集：地域の中で共に歩む教育 P8-9
- ⑤アウトドアな峠のお好み焼き店 P10
- ⑥馬の環境を作る山の上の乗馬クラブ P11
- ⑦宝の山を歩く環境調査の仕事人 P12
- ⑧風景に遊び 人生を歌う農家民宿 P13
- ⑨棚田と祭りを継ぐ消防団のお兄さん P14
- ⑩小川のそばの家 同じ地方のお嫁さん P15

P16-23

暮らしのイロハ

- ①鎮玉マップ&季節の暮らし P16-19
- ②廣瀬さんに聞く移住して始まる5つの事
& 気になる地域ができた時のヒント P20-21
- ③地域の人に聞いた生活の事
& SHIZUTAMA 遠方移動マップ P22
- ④SHIZUTAMA お出かけマップ P23



「おかえり。」

血がつながっていなくとも

おじいさま、おばあさま、

おじさん、おばさん

お姉ちゃん、お兄さんも

あいさつをかわす村。

それは、みんなが見守っている証。

子どもを外で遊ばせられる安心。

世代を越えたお喋りが

人を育てています。

ここは鎮玉の邑。

静岡県は遠州の果て。

そんな地域に暮らす人々の
「好き」が溢れてくるような
素敵な日々をお届けします。

ひずるしい邑の こんな暮らしが あったんだ

2020年3月31日発行
制作：NPO法人ひずるしい鎮玉

近年は、幼稚園・小学校の統合や高齢者だけの世帯が増加するなど少子高齢化が急速に進み、耕作放棄地の増加などによる農地や山林の荒廃が懸念されるようになりました。加えて、野生動物による農作物への被害も年々深刻になっています。

私たちは、田んぼオーナー制度や川の中の運動会、紙漉きといった地域資源を活かした体験の場を、主に都市部に暮らすお子さんや親御さんに向けて提供し、鎮玉の応援団作りに励んでいます。また、ピオトップ整備などを通して、この地域の貴重な生き物の生息環境の創出や観察会も開催しています。

私たちは春夏秋冬、地域に根ざした様々な事業を展開することで、鎮玉が人の集まる魅力あふれる地域となることをめざしています。活動には、地域の方も数多く参加しており、鎮玉ならではの文化や自然、暮らしの知恵などを聞くことができますので、ぜひ足をお運びください。





自然からアイデアを 子育てする絵描きさん。

◎野村 ちひろさん
NOMURA Chihiro

窓の外には山桜。色々な植物や生き物が溢れるこの自然からアイデアをいただいています。



まちと違う車時間 お父さんは鬼と舞う。

◎伊藤 信祐さん
ITO Nobusuke

ここは通勤ができる田舎だ。20分ノンストレスの道が呼吸を整える時間になってるよ。



※3 いなさ青年団：かつてあった青年団が復活。30～40代の地域で働く若手を中心に、田んぼやお茶栽培から婚活イベントまで幅広く活動。



多世代が交わる村の子どもたち

「これは蛍の光かな。私の絵は角度やその時の気分によって見え方が違うそうです。」

遠い昔森から来た絵描きのちひろさん。彼女が描き出すのは抽象画。元気がない時はそっと寄り添い、さあ頑張るぞという時は元気を分けてくれる、そんな絵に感じます。

「初めてここに来た時、お姑さんが地域の方々にこんな絵を描くお嫁さんだよと紹介してくれました。おかげで地域に馴染めて、美容室やカフェなど、地域のみなさんが集まるお店に飾る絵もご依頼いただいています。ちょうど『いなさ青年団』が結成して同世代の友だちもできて、私たちが生活するお部屋もその繋がりで改装してもらいました。」

ちひろさんのお家は2人のお子さんと旦那さん、そのご両親、88歳の大きいばあばが暮らす4世代同居です。

「子どもたちは自分の庭や家のように他のお家に入っちゃおう。おいおい待ってって焦るけど、みなさん温かく迎えてくれて。ここにはお家に人を上げる文化が生きているみたい。よく大きいばあばが一階でお友だちとお茶したり、誰かの家に行って、子どもたちもそれを見て。上の子は大きいばあばとよく口喧嘩します。

年の差80歳の口喧嘩。そんなこともあって、我が家だけでなく、この地域の子どもたちは色んな年齢の人と当たり前に会話できる。自分より小さい子の面倒も見れるんです。」

本物の画材を使ってちひろさんは子どもたちへお絵描きワークショップも行っています。

「子どもたちの描く絵って本当に素晴らしいんです。カタチを決めずに本能で描き出し、みんながみんなと同じでなく、その子だけの光るものを引き出してあげたいんです。私がそうでしたから。」

●ちひろデザイン制作室
オーダーメイドでの絵画・壁画の製作、ライブペインティング、繊細な印刷物のデザインなども得意です。▶作例やご依頼はHPから。



「小学生の時は毎日往復8キロ歩いてたね。おかげで足腰が強くなってリレ！とか早かったよ。通学路に木のトンネルがあって、雨上がりにも水を蹴ると滴がバサバサ落ちて、通る人をびっくりさせたっけ。悪ガキだったなあ。」

この地域の最北・寺野に暮らす信祐さん。400年以上続くという伝統芸能「寺野ひよんどり」で鬼と舞う「招き」という役を演じています。

「鬼の迫力がすごいね。普通の人でも面を付けて、火を見て、太鼓と笛の音色を聞くと人が変わる。面の視界はすごく狭いから、全体を把握できる招きが誘導する。それから『ほーれ叩けよう』って邪気の入った炎を鬼に叩いてもらって村の安全を願うんだよね。」

鬼という、悪者の印象ですが、ここでは怖いながらも村を守る存在でもあるようです。

伝承の村で育ち
ここから通うこと



「子どもには良い鬼と悪い鬼がいるという話をしてるね。良いことをすれば助けてくれる鬼もいるし、悪いことをすれば怒ってくる鬼もいるよって。個人的な解釈だけど、鬼って人の心を表しているように感じるね。良いことも悪いこともあるように、社会のことを教えてくれる気がするよ。」

普段の信祐さんはサラリーマン。25キロ以上離れた浜松の街中まで通っています。

「昔はグネグネした峠道を3つ越えないと街には辿り着けなかった。それが三遠南信谷が開通して下道もすごく良くなって、ワープしたような気分だね。距離的にはここから浜松駅までの間に井伊谷があるんだけど、そこまで20分で行けるようになった。その区間に信号がほとんどなくて、ノンストレスで走れる。何というか、仕事前に心と呼吸を整える時間になって、良いんだよね。こっつ奥過ぎず、街過ぎない。車の運転が前提だけど、穏やかな自然に囲まれて、仕事と家庭のオンオフがしやすい。この距離感はいね。」

●寺野ひよんどり
国指定重要無形文化財。寺野三日堂で、毎年1月3日の14時から日没にかけて五穀豊穡や安全を願う舞や神事を行います。



※1 三遠南信道路
新東名から直結する自動車専用道路で、将来的には天竜区佐久間町・水窪町・長野県飯田市まで繋がる計画です。

※2 井伊谷
鎮玉のある引佐町南部の中心。公共施設が集中します。



地域にある学校だから
できることがあります

パソコン片手にテレワークで、色々な所で働く廣瀬さん。東京で市民活動に関する出版社を経営し、地域ではNPOの事務局をしています。
「僕は30年ほど、グローバルな環境問題に取り組んできました。でもなかなか手応えを感じられず、もっと足元のローカルから何かを変えていきたいと思っただけです。そして東日本大震災を経験して、これからは身近で助け合えて、食料やエネルギーが循環するような地域で、いざという時に家族を守れる暮らしをしたいと思いました。」



Zoom会議の時にウグイスなどの鳥のさえずりが入り込むこともあります。

互いを知ることが
いい移住の始まり

「のどかな山の風景や空気、街までの程よい距離感、高速道路のインターが近くて、静岡や名古屋にも1時間で行ける。こんな便利な田舎はなかなかないと思います。」

浜松市東区出身の井上さんは、高校卒業後に地元を離れ、15年以上東京で生活。6年前に浜松市が行う「浜松山里いきいき応援隊」に応募し、引佐地域に着任したのがリタンのきっかけでした。現在は、鎮玉地域に暮らしながら「浜松移住コーディネーター」として、中山間地域を中心に移住希望者の相談を受け、地域と繋ぐお仕事をされています。

「移住希望者の方には移住してどんな生活を送りたいか、じっくりお話を聞きます。その上でその方にどんな地域が最適なのか、ある程度絞った中で現地を案内し、地域の方と会っていただく機会も作ります。この移住までのプロセスにしっかり時間をかけることで、地域

まずは自分の目に見える範囲で何かを変えることができないとダメだなと思って。

決め手は地域の学校 多拠点ワーカー。

◎廣瀬 稔也さん
HIROSE Toshiva



求めていたものは、「便利さ」ではなく「豊かさ」だったと最近、気づきました。

◎「いなさかき氷ラリー」。井上さんが作り手やお店を繋いで企画したスタンプラリー。引佐町内でかき氷を販売する5つのカフェや直売所で開催しました。デザインは野村ちひろさん (P5)。

「ヒト」に向きあう 移住コーディネーター。

◎井上 紗由美さん
INOUE Sayumi



廣瀬さんが移住したお家は、奥さんのご両親が暮らすお家と隣同士です。

「地方移住を考えた時、妻の両親が移住していた鎮玉地域が頭に浮かびました。ちょうど小中一貫校が開校し、生徒が運営する模擬会社や、当時は小学生の英語授業数が全国トップクラスといった特色がすごく魅力に見えて。鎮玉での田舎暮らしは、子どもの教育にもいいなって思っただけです。」

3人のお子さんが通う学校で廣瀬さんは学校支援コーディネーターとして学校と地域を繋ぐ役割も担っています。「ここではお茶や花木栽培など昔ながらの仕事をする大人もいれば、環境調査や商品デザイン、ドローン撮影など、時代の変化で生まれてきた仕事をする大人もいます。そういった意味では、ここはローカルで大切な営みと新しく開拓する暮らしの両方が根づいていると思います。そこから得られる考え方や発想力を子どもたちの授業に繋げて、子育て世代のサポートにも活かし、この地域を学校とともによりよくしていきたいと思っています。」

の方にも移住者の方にもいい結果が生まれると思っています。」

ご自身の東京からの移住経験と山間地域での実際の暮らしも相談者の方へのリアルな対応に結びつけているそうです。そんな井上さんにこれから鎮玉地域へ移住を考えている方へのアドバイスを聞きました。

「鎮玉地域は、年々企業が増えている都田地域や、大型ショッピングセンターのある浜北地域にも30分で通えて、企業に動めながら田舎暮らしを楽しむことも十分可能な場所です。ただ、車の運転は必須ですし、ご近所や地域とのお付き合い、自然に囲まれた生活など、まちの暮らしとはだいぶ違う部分もあります。私自身、長年の東京生活からの田舎暮らしでしたが、個人的に不便さはそこまで感じませんでした。それよりも、季節の移り変わりを肌で感じ、山の素材の恵みをいただき、地域の人の声を掛け合う...そんな日々の暮らしに、むしろ豊かさを感じています。ぜひ、そんな暮らしを皆さんにも味わってほしいですね。」

※3 NPO 法人ひずるしい鎮玉
遊休農地での田んぼオーナー制度や水生昆虫のピオトープ作り、川での運動会など、自然環境を生かした交流事業に取り組んでいます。

鎮玉ハーブ
奥さんの平晶さんが参加している地域のお湯さんグループ「はたるの会」と「ひずるしい鎮玉」が協働して販売する野草茶。クロモジやヨモギなど、香りのいい植物を活用しています。
▶販売は「たざわの里」などで (P17: map 参照)



※4 浜松山里いきいき応援隊
地域おこし協力隊の浜松市版。全国の都市部の若者が浜松市の山里に移住し、地域の人たちとともに地域の魅力向上、活性化に繋がる活動をしています。



※5 浜松移住コーディネーター
浜松市の都市部と中山間地域両方を対象に移住相談を行っています。詳しくは浜松市移住促進ホームページ「はじめよう、ハマライフ」をチェック。



ふるさと科の授業で棚田の農家さんを訪問。
昔ながらのお米づくりを教わっています。



しいちゃんパウダー

「ザ☆農課」が栽培した椎茸を「食課〜(しよっか〜)」が粉末にしたもの。部門間での連携をしながら、様々な素材との組み合わせを試作実験しています。



秋開催の「いなさ人形劇まつり」では、地域の歴史や伝説を題材に、人形劇団として参加しています。



サマースクールでは、デザインやドローンなど色々な技術を持つ地域の方が講師となり講義します。

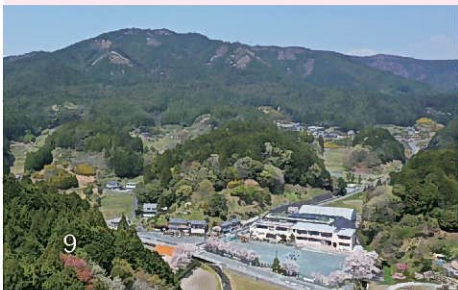


学校の取り組みや卒業生の声は「コミスクだより」という素敵なペーパーで発信中。HPでも見られます。

**校長先生に聞く
年齢の離れた生徒が一緒にいる良さ**

下級生の子たちは、手の届く身近な存在として上級生を見ています。上級生は自分の通って来た道のそれぞれの頑張り所をよくわかっているの、下の子たちにアドバイスしてくれる。これがお互いの成長に繋がるんです。家庭科の授業では、幼児のためのおもちゃ作りをし、幼稚園児と一緒に遊ぶ授業もしています。常に年齢の違う子どもたちが接している、これが良いですね。思春期の生徒でも子どものお世話はすごく得意、といったように、ここでは色々な面に心を開けると感じます。

学校から距離のある波川と久留女木に住む児童はスクールバスでの送迎があります。体力が付いた7年生(中学生)からは自転車での通学となります。



●引佐北部小中学校
波川・久留女木・田沢小学校と引佐北部中学校が統合し2012年に開校。
浜松市北区引佐町四方浄 134-6
☎ 053-528-3131 / 学校の様子はHPから。



カブトムシ

模倣会社きりやまの「ムシムシ課」が朽木のくずを使って幼虫から育てています。



鎮玉の学び舎
**引佐北部
小中学校**

自然に囲まれ、少人数だからこそできる特色があります。



ふるさと科の授業で、お茶農家さんを訪問し茶摘みを体験。

【学校特集】
ふるさとを知り
セカイを学ぶ教育。

鎮玉地域にある引佐北部小中学校は、静岡県初の公立の小中一貫校として開校しました。1年生から4年生が初等部、5年生から7年生が中等部、8年生と9年生が高等部と3つのカテゴリーに分かれた教育活動が展開されています。

特に注目されている特徴的な科目は、ふるさと科と国際コミュニケーション科です。ふるさと科では、地元の方を講師にフィールドワークを行い、地域の良さをさまざまな体験を通して学びます。国際コミュニケーション科では1年生から英語を学び、全国トップクラスの英語の時間が確保されています。

7年生から9年生は、「きりやま」という模倣会社を生徒たちで経営します。一人ひとりの得意分野に合わせて「ザ・農課」「ムシムシ課」など5つの部門に分かれ、地域資源を活用し自分たちで商品アイデアから開発、販売までを行うなど、社会と繋がる実践的な活動を行うことができます。

また、コミュニティ・スクールとして、地元の方が多数参画



バンブーペンホルダー
地域の資源(原価ゼロ)を活用する「エコ♡(ラブ)課」が開発した竹から開発。名刺立てにもなる優れものです。



摘んだ茶葉で手揉み茶体験をしました。



馬の環境を作る 山の上の乗馬クラブ。

©村田 康全さん
MURATA Yasumasa

馬にいい環境を整えるには自分でやるしかない。



馬に着せる「馬着」は、防寒着として活躍。村田さんはオーストラリアの職場で出会ったスタッフの水野さんと共にYouTubeで乗馬や馬に関するハウツー、馬具などの紹介も発信しています。



土をただ掘っただけでは硬くて蹄が傷つきやすい。そんな時、木の破材や馬糞が土壌改良に活用されています。

「初めて馬を連れてきた時はマダニがいっぱい付いて大変でした。けど1ヶ月経つと全然見かけなくなりました。馬が草を食べて歩く草むらがないようになってダニが生き残れないみたいです。」

浜名湖北岸の気質から毎日山の上に通う村田さん。乗馬クラブを経営しながら、自分たちで斜面を開拓。周囲の木を間伐し、その材で馬房やクラブハウスを作っています。

「ここは元牧場の牧草地でした。地主さんが遠い親戚で共通の知り合いの紹介もあって話がとんとん拍子に進みました。建物を木で作るようになったのは、ログハウスを自分で作る方と知り合ったのがきっかけです。その方がちょうど

久しぶりに村へ 馬がやってきました

「馬を飼いはじめ、僕のことを見ていた郵便配達の方が紹介してくれて、ここに通うようになったんです。僕も木で建物を作りたくなくて、その方に監修していただきました。」

金沢の大学時代に馬術部に入ってから、馬に夢中になった村田さん。オーストラリアの乗馬クラブに勤務したことが、今の自分の生き方に響いているそう。

「職場では馬房や馬を洗う場所、放牧地、さらにはエクステリアの造成もやっています。それで自分で設備を作るという土壌が元々あったんです。そういったトータルな面で展開できる所が日本には少なく、馬により良い環境を整えるには自分でやるしかないなって思っています。来るたびに何かできていますよ。」

●シャムロック乗馬クラブ
浜松市北区引佐町浜川662
☎ 080-4252-6648
営業時間は9時～17時(夏季変更あり)
会費がかからないビジター制乗馬クラブです。
電話かEメールでご予約を。▶料金プランはHPから。



アウトドアな 峠のお好み焼き店。

©澤田 博文さん
SAWADA Hirohumi

大阪はお好み焼きが文化やった。それを近所の人らにも振る舞いたくてな。



⑤ 休日はお孫さんと一緒にいなさ湖から久留女木川までカヌー!

お好み焼き文化 持つてきました

波川へ向かう峠の途中にヤギがいるお好み焼き屋さんがあります。お店を開いたのは、大阪出身で浜松の街中で20年以上暮らした澤田さんご夫婦。「カヌーとか道具を置く場所が欲しくて、物件探してたらここが見つかった。初めは住む気はなかったけど「こっちおいで」って近所の人が誘ってくれてね。建築屋さんが「それで作りな」って、材木をいっぱいくれた。改装なんて経験なかったけど、付けたり外したり、やれば意外にできるんやなあ。」

元鉄工所跡というお店の中には、釣り道具からアクアリウム、お好み焼き用の大きな鉄板など、澤田さん家族の好きなものでいっぱい。アウトドア全開な楽しい空間です。

「子どもの頃、土曜日のお昼は必ずお好み焼き屋に行ってお笑いをテレビで観た。家でもお好み焼きパーティーやって。そういう文化や関西は。そ

れてこっち住んでからも近所の人らとお好み焼きパーティーして。ここやったらお店出せるんちゃうのってなった。」

土日限定で開くお店には、近所の方のみならず、ツーリングやサイクリングの人たちも足を運びます。お店の接客は元気でトークの面白い奥さんが黙々と鉄板で調理します。

「ここは高速のインターがあるからどこでも行ける。恐ろしく便利な。土日はお店をやったり、近くのいなさ湖でカヌーして。浜名湖とか遠州灘も時期によって、ヒラメとかブリ、スズキとかいい魚が釣れる。それで平日は普通に仕事に行けて、まあ天国やな。」



●お好み焼 さわ田
浜松市北区引佐町浜川4131-1
☎ 053-545-0160
営業時間は毎週土・日曜日の8:00-21:00
(モーニングは8:00-11:00)
▶臨時休業もあるので、ブログをチェック。



風景に遊び 人生を歌う農家民宿。

◎ 太田 朗さん
OTA Akira



色んなことありますよ。
笑えたり怒れたり。
それがあるから人生は
面白いのかもしれないね。



「うなぎやドジョウは見なくなったね。でも、泊まりに来た子どもたちが小川で遊んだり、女の子がニコニコしてカエルやサワガニ捕まったり。朝早くから夕方までやっているよ。うちはもてなす物ないから、この風景の中で僕らが子どもの頃体験した遊びで過ごしてもらっただけなんだ。」

生まれ育った里山で奥さんと農家民宿を開いた朗さん。元々は、全国を走るトラック運転手。農家と宿をやりつつ「GGG」という趣味のバンドも相棒と結成。地域の福祉施設を月に4回ほど回り、人々を楽しませています。

やることだらけ 趣味ある暮らし



色んな角度から見える瓦屋根は村のお宝。畑仕事を終えたおばあちゃんたちの憩いの場になっています。

● 農漁家民宿 ログハウスあきら
薪ストーブと檜風呂のあるログハウス、そして小川の横のBBQ場で自家製野菜や五平餅、自慢のタレで漬けたホルモン焼きなどを楽しめます。
浜松市北区引佐町駒場 365
☎ 090-8673-1644 / 空室状況はお電話から。



宝の山を歩く 環境調査の仕事人。

◎ 桑鶴博尊さん
KUWAZURU Hironobu

桑鶴さんが草刈りの試験をしている草地はドクダミなど薬草として親しまれる植物が何種類も生えています。



水がちょうどいいんです。少し田んぼで汚れてその栄養が川に入ってます。

湧水が出る穴の中にもいるネバタゴガエルというカエルの声がよくシットリと湿った森。桑鶴さんの自宅近くで管理する「お庭」のひとつで、いつかこの空間自体を時間貸しのような形で活用したいそうです。



※6 タガメ 池や田んぼに生息する大型の水生昆虫。
※7 カワナ 螢の餌となる巻貝で頸玉の小川では多く見られます。

「この草地は10〜15cmほどの高さで刈ってます。すると、ヨモギやゲンノショウコといった背の低い植物が色々増えます。それがススキなど背丈の高くなる草を抑えてくれて、草刈りが1、2回減るんです。」
28歳で奥さんのご実家がある鎮玉に移り住んだ桑鶴さん。全国各地で植物や猛禽類、ウミガメなどの調査・計画を行うスペシャリストです。

「この辺りは典型的な中山間地域で、田んぼや草地、林があるバランスの取れた環境なんです。標高が200〜700mなので平地から山地性の植物がはえて生き物が特に多い。食物連鎖でトップに立つ多様な猛禽類が生息しており、タガメ^{※6}は県内ではこの地域だけ。小さい田んぼが今も作られているのがよかったですね。螢にもいえるのですが、ここの少し田んぼで

小さい農業が文化と 生き物を守っています



お庭で取れた食べられる野草たちを持つ桑鶴さん。時々、散策や薬草講座もされています。

汚れて栄養が入った水がちょうどよくて。そうするとカワナ^{※7}も増えて。小さい農業が、文化や生き物を守っていると感じますね。」

桑鶴さんは、近年「和ハーブ^{※8}」と呼ばれる暮らしの役に立つ有用な植物の発信にも取り組んでいます。

「人脈を活かして色々な分野の専門家どうしを繋ぎ、より効果的に植物や放置された山の活用を模索しています。浜松は山、川、湖、海が一体となった珍しいまちです。これからの山には特用林産物^{※9}に和ハーブの概念も加え、森林セラピーなどの観光を組み合わせることで、その価値を高められると思います。山はより美しく、栄養を蓄え、川に栄養が注ぎ、やがて海の環境や漁業もよくしていくはず。まだまだ可能性を秘めた、宝の山がここにあると感じます。」

※8 和ハーブ 日本で昔から人々の暮らしの中で香りや薬効が親しまれてきた植物。詳しくは和ハーブ協会 HPへ。
※9 特用林産物 森林原野を起源とする生産物のうち、一般の木材を除くキノコや山菜類、炭などを含みます。



不思議なことが
伝わる村の日常

「この棚田で引いている湧水は夏でもずっと冷たいだよ。冷たすぎると稲がよく育たないから、ちょっとした掘で遠回りさせたり、田から田に落とすとしていく内にちょうどいい水温になる。今から植えるこの小さいところが阿弥陀様の田んぼ。祭りでお供えするお米を育てる田んぼだよ。」

斜面いっぱい小さな田んぼが連なる久留女木の棚田で米作りをする仲井家の皆さん。祖母とともに暮らす正浩さんは、亡くなった祖父から村に伝わる伝統芸能「万歳楽※10」の進行役・禰宜を受け継いでいます。

「祭りの意味は、時代の中で色々抜け落ちて、正直わからないことが多いよね。この役は完全な世襲制。前から自分が家を継ぐ意識を持ってたから、この祭りも自分がやるものだと思って村のみんなと続けてます。」



棚田と祭りを継ぐ 消防団のお兄さん。

© 仲井 正浩さん
KAZUHIRO NAKAI

自分にとってはこれが普通。特別に意識が高いわけじゃないんだよ。



「家自体は400年以上続いてて、戦国時代に一番を治めてた井伊家の関係らしい。この村には大河ドラマになった直虎のおばあちゃんも隠居してきたお寺やお墓があったり、どこか隠れ里的な所がある。いまだに久留女木って字も不思議に感じる。」

正浩さんは普段土木関係の仕事をしていて、地元消防団でも活動しています。夏祭りでは蛇踊り※10を奉納したり、村を越えて地域の様々な催しで露店の焼きそばをやってたりと色々な顔があります。

「同級生や歳の近い先輩、叔母さんが入ってるグループの繋がりで助っ人が増えたのかな。焼きそばは元々BBQの回数が多すぎて身に付いたような。ここはこの家もBBQできて、とりあえず暇あれば友だちとBBQ。まちの人が晩飯食い行こうかってノリだね。祭りも棚田も含めて、外から見たらすごいんだらうけど、自分にとってはこれが普通。特別に意識が高いわけじゃないんだよ。」



「この家は一昨年で築100年。子どもの頃、大雨で玄関まで水が入って来た時があった。近所の大人たちが水をかき出す様子を見ていた。「おい魚がいるぞ」と言っていたのをよく覚えてるな。それからブロックを積むなど、色々対策しているよ。川のそばはデメリットもあるけど、屋根から釣りしたり、体に付いた堂を払って家に入ったり、他では経験できないメリットの方が多いから大きかったね。」

一家のじいじこと義昭さんは川のそばの家での記憶を丁寧に語ります。鈴木家は息子である夏路さん家族、そして大きいばあばの4世代が同居。スーツが似合う夏路さんは保険の営業マンで、静岡県中を回りつつ在宅ワークもしています。奥さんのひかるさんは浜名湖沿いの湖西市からお嫁入り。子育て真っ只中です。

表の柿の木は
じいじが生まれた
時にはありました



川はデメリットもあるけど、豊かな体験といったそれ以上のメリットがとても大きいね。

小川のそばのお家 同じ地方のお嫁さん。

© 鈴木さん家族
SUZUKI Family



「夏路さんがお仕事でどうしても忙しい時があるので、じいじばあばのサポートにはとても助けられています。特に上の子が夜中や早朝、気が付かない内にじいじたちのお部屋に行っても、相手をしてリ、一緒に寝てくれたりしてくれそうです。地域に子どもは少ないのですが、歳の離れた近所の中学生のお兄さんたちが子どもと遊んでくれたりもします。少し離れたお友達の家まで、あまり車を気にせずトコトコ一緒に歩いて行けるのがいいですね。」

ひかるさんが、この地域にお嫁に来た当時、買い物などに出かけると何かと時間がかかるのが気になったそうです。「私はショッピングが好きなので、実家の母と待ち合わせして子どもたちと市野のショッピングモールまでよく行きます。車で1時間くらいかな。初めは本当に遠く感じたんですが、不思議なもので移動についてはもう完全に慣れちゃいましたね。」

お子さんの大好きなお砂場は
じいじの手作りです。



建物の真ん中をリフォームし、レトロとモダンが同居する鈴木家。表で畑仕事をしていても大きな時計で時間がわかります。



※10 東久留女木の万歳楽
毎年2月1日に阿弥陀堂というお寺で日没後に行われます。断片的に稲作に関係した神事などが残されています。

※11 川合淵祭りの蛇踊り
毎年7月の第一土曜日のお昼過ぎに川合淵公園で行われる夏祭り。いくつかの時事とともにこの地の伝説に因んだ舞を奉納します。



夜 がとても暗く感じるといいます。狐やフクロウの鳴き声が聞こえる日もあるでしょう。星空は一年を通して美しく、月の光で影ができるような夜もありますよ。

風習 や祭りが年間を通して色々あります。節分のようによく知られた風習でも、一般的な飾りとは全く違ったりします。人と自然が共存する山里ならではの不思議でどこか教訓的な意味合いが多いようです。風習や祭りに顔を出す機会があれば、どんな意味なのか聞いてみましょう。

All year 一年の事

色々あります。節分のようによく知られた風習でも、一般的な飾りとは全く違ったりします。人と自然が共存する山里ならではの不思議でどこか教訓的な意味合いが多いようです。風習や祭りに顔を出す機会があれば、どんな意味なのか聞いてみましょう。



花木 の栽培が一年を通して行われています。孔雀ヒバ、雪冠杉、クリスマスホーリー、花桃、鬼灯、三椏など、きっとお洒落なお店では一度は見たことのあるような植物が、まるで見本市のように綺麗に育てられています。

古道具 が農作業やしめ縄作りなど色々な場面で使われています。右の木槌は「つちんぼ」と呼ばれ、古いものでは100年近く経っています。

五平餅 は小さなお子さんからお年寄りまでが大好きな郷土食。熱々のお米を練って形を整えたものに甘じょっぱい味噌ダレを塗って炭で焼き上げます。イベントの露店で必ずといっていいほど見かけ、時には家庭でも食べられています。



つちんぼ

鎮玉マップ & 季節の暮らし

半径5kmの中に風景や文化が詰まっています。ここで暮らすと感じられる、季節のいいことや美味しいこと、ちょっと大変なことを綴りました。



大代の茶畑 (春)

古東土の茶畑 (冬)

久留女木の棚田 (秋)

川合淵公園 (夏の水中)



枯山ギフチョウ観察道

堂 日々平のお堂

湖 いなさ湖 (都田川ダム)

家 鈴木家住宅

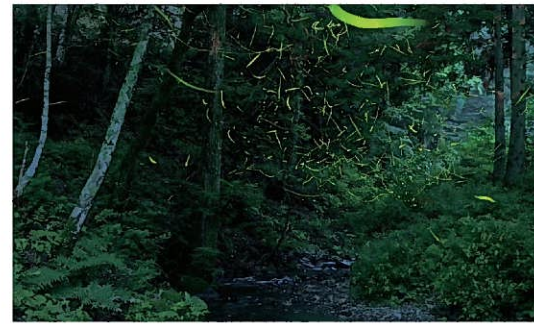
東久留女木新田



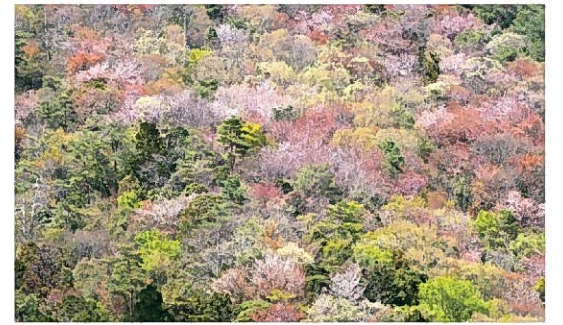
雪は稀にチラつく程度。日本中が大雪でも浜松だけは晴れているぐらい、大雪が珍しいです。山間地の道は凍結しやすく、冬用タイヤが必要な地域もあります。朝陽で霜が溶けるとキラキラと輝き、厳しくも光の綺麗な季節です。



稲刈りでは、天日で稲を干す昔ながらの「ハザ」も多く、形も様々。新米の味はおかずなしでも箸が進むほど美味しいです。秋は空気もカラッとし、青空とともに稲穂の香りが漂います。



螢が家の中に入って来る...それほどよく飛びます。見頃は6月の中旬から中旬。夏から秋の夜は毒蛇など危険な生き物も出るので、懐中電灯が必須です。良くも悪くも色々な生き物が出る季節。図鑑で正しい知識を身につけておきましょう。



新緑は紅葉よりも鮮やか。3月になるとクロモジなどの林の下の小さな木々が花を咲かせます。4月に入ると、徐々に山の色が移ろいていきます。春はお茶と田んぼも始まる、新しいことづくめのワクワクする季節です。

Winter

冬の事

風は、家が揺れるほどの突風が吹く時もあります。冬に多い冷たく乾燥した風は「遠州の空っ風」と呼ばれ、風を利用し、干し芋や切り干し大根が作られます。気温は最低で0℃マイナス1℃。日中は5〜10℃ぐらいが多いです。太陽が低く、暖かい日差しが注ぐので日中の室内はポカポカします。

Autumn

秋の事

お月見泥棒

が十五夜の夜に来るかもしれませんが、軒先や縁側に十五夜のお供えと一緒にお菓子置いておきましょう。「お月見です」と地域の子どもたちがあちこちの家々を周りまわす。日本全国に点々とあるハロウィンのような不思議な風習です。

Summer

夏の事

梅雨は6月中旬から。涼しい日が続きます。湿気やカビは、すのこや木炭など、昔ながらの工夫でやりすごしています。梅雨が終わると一気に蒸し暑く、日中35℃を超える日もあれば、朝晩は20℃近くまで下がることもあります。土用の丑にうなぎを食べ、真夏に備えましょう。浜名湖周辺には多くの銘店があります。

Spring

春の事

茶摘み

が5月の連休を中心に、茶畑が賑わいます。もし機会があればベテランの方に教わってみましょう。お茶の専門家さんもお茶を扱うことができます。お茶の新芽は天ぷらにして塩でいただくのも美味しいですよ。

伝統芸能

野で1月3日に行われます。遠州や近くの奥三河、南信州では冬に独特の面を付けた舞や神事を行う不思議な祭りが数多くあります。

みかんなど柑橘類が栽培が盛んで、村の人たちが大勢「切り子」として収穫に行きます。大勢でのみかん切りは楽しく、身も心も温まります。

秋祭り

は、収穫の感謝を伝える神事を神社で行います。余興で境内の舞台で劇や一芸が披露され、屋台が出る所もあります。田沢では子どもたちが太鼓を叩き、別所や渋川では若連の方々を中心に大太鼓を叩きながら賑やかに練り歩きます。

祭り

は神事から納涼祭のようにならびに村で楽しむものも色々。奥浜名湖周辺では7月の祇園祭で厄病退散を願い、手筒花火も多く行われます。外の人にもオープンな祭りが多く、色んな村の祭りに足を運んでみましょう。

お盆は他の地方に比べると華やかに行われることが多く驚かれるかもしれません。浜松では、遠州大念仏という念仏と舞を混ぜて大勢で練り歩くような行事も広く行われています。

霞

がかった空が多くなり、ぼんやりと淡い夕焼けが見られます。やがて5月の連休が近づくと色の濃い青空になり、日中は30℃近くになることも。5月の中旬を過ぎるとカラッと晴れて風の心地いい日が多くなります。山々に芽吹いた木々の緑はいつそう濃くなっていきます。



芽吹きが2月を過ぎると少しずつ始まります。斜面にフキノトウが芽を出したら花が開く前に摘みましょう。敷地外で山菜を摘む時は、必ず地主さんに一声かけましょう。一番美味しい食べ方を教えてください。

実りを楽しめます。山沿いの道には柴栗という小ぶりですが味の濃い栗が落ちていることがあります。直売所でも栗が多く並ぶので、秋の夜長にコトコト渋皮煮や栗きんとんを作るのもおすすめです。この頃は奥浜名湖でハゼという魚もよく釣れ、素揚げでよく食べられます。



川が楽しい季節。川遊びや釣りの人でよく賑わいます。鮎の友釣りなど本格的な釣りに興味のある方は漁協組合へ。ベテランの釣師から丁寧に教わるイベントもあります。脂の乗った鮎は塩で揉んで炭焼きで食べるのがとにかく最高です。



筍の種類も色々あります。アグ抜きは唐辛子とコイン精米所で貰える糠と一緒に茹でます。大きな筍でも皮を剥くと食べられるのは3分の1ぐらいです。筍掘りは、イノシシとの競争になります。



道や集会所、神社が綺麗と感じるのも村の人々がお掃除や草取りをしているおかげ。ここでは誰もが村の風景や文化を受け継ぐ仲間です。

4 お役が回る
自治会や隣保では、様々な行事や活動を担う役がいろいろと存在しています。自治会長のようには、経験や年齢から選出される役もあれば、隣保代表や集会所、神社の清掃など、持ち回りで平等に回ってくる役もあります。お子さんがいらつしやる場合は、子どもの数が少ないこともあり、幼稚園や学校PTAの役は一度は必ず回ってきます。大変かもしれませんが、こうした役をしっかりとこなすことが、地元の方から信頼してもらえ、地域で何かやることとする時には、こういった信頼も必要です。ちなみに、隣保代表は、1年交代で隣のお宅へと持ち回りとなっていることが多いです。常会や隣保独自の行事などを主催します。また、毎月下旬に自治会の全隣保代表が参加する定例会へ参加する他、年に数回ある氏神様の神事・祭事へも参加します。移住先により早々に隣保代表が回ってくる場合もありますが、隣保の皆さんがサポートして下さるので、心配する必要はないでしょう。

【主なお付き合い】

- ・隣保常会（月1回）
- ・自治会総会（年1回：3月）
- ・氏神様の例大祭（年1回）
- ・街をきれいにする日（年1回：6月第1日曜日）
- ・隣保単位の祭事（年2～3回）
- ・隣保単位の清掃活動（年2～3回）
- ・初盆（年1回：8月14日）
- ・葬儀（隣保内の不幸の場合）

5 村のお付き合い
この地域では隣保を中心とした様々なお付き合いがあり、年間を通して数多くあります。都会から来られた方は、きっとご近所関係の濃さの違いに驚くでしょう。仕事などの関係で全てに参加することは難しいかもしれませんが、その都度、隣保代表にお断りを忘れずにして、無理のない範囲で村付き合いをしましょう。定期的に色々な住民の方々と顔を合わせることで、旬な食べ物を教えていただいたり、取りに連れて行ってもらうたり、いい機会にもなりますよ。

気になる地域ができた時のヒント。

移住は自分の環境を移すこと。人によって状況は色々。自分にあった方法で下調べや準備をしましょう。



足を運ぼう

興味がある地域があったら Google マップなどで調べて、実際に車で行ってみましょう。距離感や標高差など実感出来ます。NPO が開催する体験イベントなどに参加すると地元の人からの貴重な情報も得られます。農家民宿や飲食店もおすすめ。



参加しよう

都市部に暮らす若手の方を対象に浜松山里いきいき応援隊（山いき隊）という事業を浜松市が行っています。地域の人や魅力、課題を深く知り、何かに取り組みたい方におすすめ。隊員が鎮玉の人々で作ったミュージックビデオが面白いですよ。



相談をしよう

浜松市では都市部と中山間地域両方を対象に、移住コーディネーターによる相談窓口を設けています。移住フェアなどのブース出展のみならず、zoom を利用した web 相談もあるので（予約制）、こまめに情報をチェックしてみましょう。



NPO 法人ひずるしい鎮玉の Facebook ページ



山いき隊の活動内容や募集情報



山いき隊員制作の動画「OCHATSUMI DAYS」



浜松市移住促進ホームページ「はじめよう、ハマライフ」

1 まずは自治会を知ろう

自治会という言葉を知って聞くと、一つの地区の住民が、祭り行事や防災、清掃、教育サポートといった活動をし、地域を住みやすく、楽しく、互いに助けあうための地縁組織です。この鎮玉地域には、的場四方浄、田沢、別所、久留女木、渋川、寺野という6つの自治会があり、共通の活動内容を継承する所もあります。自治会には原則として全世帯が加入しているので、しっかり入る

ようにしましょう。村での取り組みや課題などを知り、共有することが出来ます。自治会により多少上下しますが、運営費用として自治会費を平均で月額3,000円程度支払います。自治会には様々な役職があり、トップが自治会長です。移住が決まった時は、行政職員の方に自治会長さんをご紹介してもらい、挨拶に行かれますと良いでしょう。「こんな方が来られますよ」と住民の方々に広めてくれると思います。物事もスムーズにはいけません。



廣瀬さんに聞く
移住して始まる
5つの事。

田舎暮らしに興味のある方々へ。先に知っておくと得する地域の組織や役割を少しお伝え。移住9年目の廣瀬さんに聞きました。

2 隣保の常会

各自治会には、隣保と呼ばれる複数の班で構成されています。隣保の規模は小さなものから20世帯以上の大きなものまで存在しています。この隣保単位で、原則として毎月、月末に常会と呼ばれる会合があります。各世帯から代表1名が出席し、身の回りの課題から自治会単位の行事、ひいては鎮玉地域全体の課題などについて議論します。隣保は、普段の暮らしで最もお付き合いが深くなるご近所さんのグループです。地域コミュニティ運営の重要な役割を担っているといえます。移住して来たら、自治会長さんに隣保代表の方をご紹介いただきましょう。そして時間の取れる時に全ての隣保のお宅に挨拶に伺うことをお勧めします。常会には出ない奥さんやおばあさんに顔を覚えてもらうきっかけになります。皆さんどんな方が来られたか気になっているはずですよ。ちなみにこういった挨拶は名披露目と呼ぶそうです。

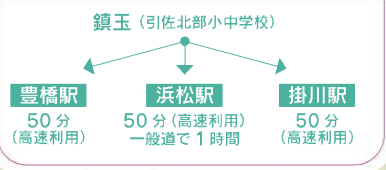
3 祭や神事

各自治会（地域）には、氏神様という村の守神的な役割を持つ神社があり、年に1度、例大祭が行われています。昔に比べると規模が小さくなったようですが、今でも神社の例大祭は地域最大のイベント的な位置付け。さまざまな余興や出店があり、老若男女、地域の人たちも楽しみにされています。例大祭の際には、その1年間で新しく生まれてきた子どもや、結婚、移住で新たに地域の仲間となった人が神社の氏子（神社を守るメンバー）となる「初参り」と呼ばれる儀式が執り行われています。これらは宗教的な行事であることから、ご自身の信仰する宗派によっては参加を遠慮させてほしいという方もいらっしゃるかもしれません。その場合は、自治会長や神社総代という役職の方にその旨をお話されれば理解していただけます。ただどちらかというと、宗教的要素よりも地域の祭りとしての文化的要素が大きいことから、地域のみなさんとの交流の場と割りきって参加するという考え方もあります。



別所下組で8月末に行うお不動様のお祭りでは、そうめんをみんなでお食べるのが習わし。かき揚げは、地域のお店の手作りです。

最寄りの新幹線駅への移動目安(車でおよそ)

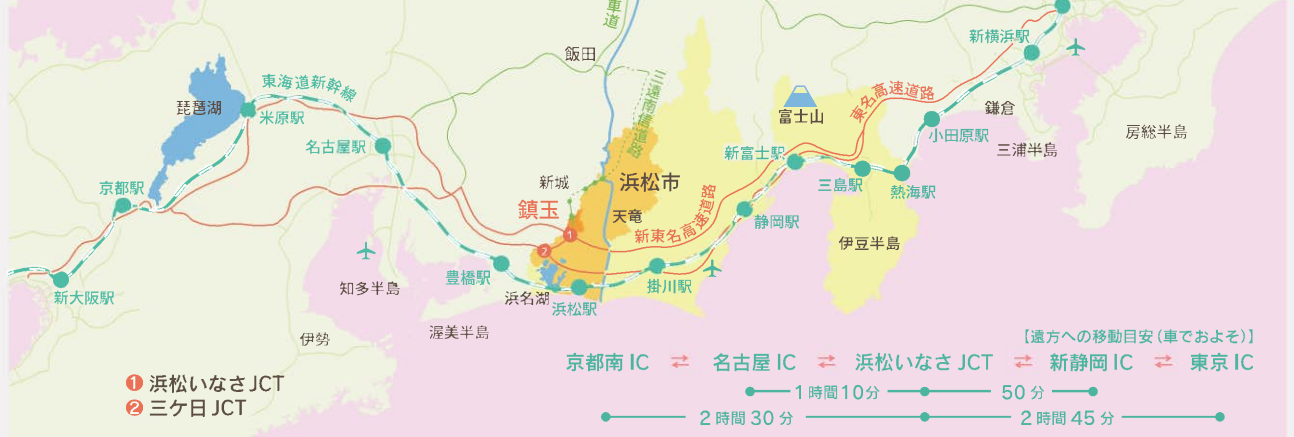


遠州灘 / 太平洋

SHIZUTAMA お出かけマップ

0 1 5 10 20km
 主な凡例: 総合病院など スーパー・ドラッグストアなど ショッピングモール

SHIZUTAMA 遠方移動マップ



地域の人に聞いた生活の事

車での移動

鎮玉地域からの移動は車が基本となります。道路はほとんど渋滞がみせませんが、南部の金指や浜松の街中では通勤ラッシュの時間が発生することがあります。浜名湖沿いを1時間ほど南下すれば太平洋へ、1時間ちょっと北上すればスキー場もある南信州(長野県)へ行けます。新東名高速道路を使えば、静岡市や名古屋市までも約1時間で行くことができます。鎮玉周辺には温泉も色々あるので、ドライブで楽しみたい。電車でのおびり遊びに行きたい時は、一両編成の天竜浜名湖鉄道がおすすめです。

お買い物

食品や生活用品の買い出しの時は、スーパーやドラッグストアの多い井伊谷や金指に行くことが多いです。特に井伊谷にはガソリンスタンドもある他、図書館や行政サービスを受けら

子育て

幼稚園は鎮玉地域では田沢に「引佐北部みさと幼稚園」があります。また、未就園児のお子さんを対象に井伊谷にある引佐協働センターの2階では平日の日中に「子育て支援広場」が開かれています。鎮玉では地域のお母さんたちが中心となって「こうのとりのサークル※14」という子育てサークルを毎月1回ほど行っています。各種子育て支援については「びびび※15」という情報サイトがおすすめです。



※15 浜松市子育て情報サイトびびび

※14 伊平・鎮玉こうのとりのサークル 鎮玉とお隣の伊平地域の未就園児を対象に開催。野村ちひろさん(P5)によるアート体験などのWSも行っています。⑩



※12 ⑩ニシオカストアー 鎮玉の別所にあるお店。毎週木曜日が定休日。
 ※13 ⑪農産物直売所たざわの里 土日のみ営業。花や色々な野草のお茶も販売。季節限定で五平餅やうどんなどの軽食もあります。



しずたま 地域とは、静岡県浜松市北区引佐町の北部地域を指します。この地名が生まれたのは、明治22（1889）年。町村制の施行により、田沢村、的場村、四方浄村、別所村、西久留女木村、東久留女木村（一部）、洪川村が合併して引佐郡に属する鎮玉村が誕生しました。その後、昭和30（1955）年に引佐町と合併したことで、地名から鎮玉は消えてしまいました。しかし、明治から戦後に至る激動の時代にあったこの地名は今でも人々に親しまれています。

この冊子は、浜松市中山間地域まちづくり事業「田舎ゆったりプロジェクト」で作成しました。